祝「海の日」20年

記念メッセージ集

海にひろがる夢・みらい

海の日

国民の祝日「海の日」海事関係団体連絡会

「海の日」は
「海の恩恵に感謝するとともに
海洋国日本の繁栄を願う日」です。

みんなで

海のことを考え
に親しみ
を大切にしましょう。

地球の表面積の７割を占める海。四面を海に囲まれた海洋国日本。
私たちの生活は、海や船とのかかわりを抜きにしては語れません。
私たちの未来を考えるとき、
人類の貴重な財産である海を改めて見直すところから始めなければなりません。
「海の日」が「海」について改めて考える機会となればと願っています。

四方を海に囲まれた我が国は、遙か昔から海洋を交易の道として利用し、外国からの文化の伝来をはじめ、人の往来や物の輸送、産業、生活などの各分野にわたって、海と深い関わりを持ち、またその恵みを受けてきました。

「海の日」は、こうした我が国のなりたちを踏まえ、「海の恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願う日」として、平成８年に国民の祝日に制定されました。世界的にも、「海の日」を祝日としている国はなく、いかに我が国が海を重視しているかを示す証左ともいえます。

その「海の日」は、本年７月20日で、祝日化されてから20回目を迎えます。この節目の年に、国民の皆様には、是非、「海の日」祝日化の原点に返り、改めて、海に対して思いを馳せていただければと思います。

毎年、「海の日」を含む７月の１ヶ月間は、「海の月間」として、様々な記念式典、船舶・造船所等の施設見学、海を身近にしたイベント等の機会が提供されています。恒例の「海フェスタ」は、本年は、「海フェスタくまもと」として、熊本市を中心に７市１町で開催されます。

加えて、本年は、20回目の「海の日」を契機に、世界各国の海事・海洋関係者にお集まりいただき、国際海事機関（IMO）の「世界海の日」のパラレルイベントとして、「海事教育及び訓練」をテーマにした国際シンポジウムを行うこととしております。

また、民間団体と行政機関が一体となって立ち上げた、「海の日」特別行事実行委員会の取組として、特別行事「海でつながるプロジェクト」を実施していくこととしており、全国各地で様々な関連イベントが行われることとなっています。

国民の皆様にもこうした行事に積極的にご参加いただき、海に親しむとともに、皆様の海への理解が深まることを祈念して、私のメッセージといたします。

平成27年７月

国土交通大臣　太　田　昭　宏

国連の専門機関である国際海事機関（IMO）では、1978年より、国際海運と海事産業の振興と IMO の活動の広報のため、毎年９月に世界海事デーとしてロンドンの IMO 本部で祝賀行事を行うとともに、IMO 加盟国政府にもこの日に合わせた祝賀行事を行うよう働きかけてきました。

この広報活動をさらに強化するため、IMO では、2005年より、パラレルイヴェントとして、世界各地で IMO 加盟国の持ち回りにて祝賀行事を開催し、IMO の世界海事デーのテーマのもとでシンポジウムや講演会を開催する事業を進めてきました。

今年は、我が国で国民の祝日としての海の日が制定されてから、20年となりますが、この記念すべき年に、しかも７月20日の海の日に合わせて、世界各国の代表者をお招きして、IMO のパラレルイヴェントを我が国で開催できる運びとなりましたことを、大変喜ばしく思います。日本政府を始め、この事業の実現のためにご支援いただいた日本財団の笹川会長ほか、関係者の皆様に、心から御礼申し上げます。

世界に貢献する平和国家日本の将来は、我が国が海洋に依存している事実を認識することから離れてはあり得ないと思います。その意味で、海洋と海、そして海事産業の重要性を広く国民の皆様に理解していただく広報活動は極めて重要です。

記念すべき、第20回の海の日を迎えるにあたり、IMO のパラレルイヴェントの日本での開催が、わが国の海の日制定の記念事業を支える一助になり、そして、一人でも多くの方々が、地球と海洋環境の保全、航海の自由、漁業資源の管理、持続可能な国際海運の育成など、海の恩恵と海洋を守る活動の大切さに思いを馳せ、そして特に若い方々が、海運造船といった海事産業を支える仕事、また、海洋科学や海洋研究ほか、生涯をかけて海洋を守る仕事に就いていただけることを願って止みません。

IMO 事務局長　関　水　康　司

芦田 昭充（日本海事広報協会会長）

四方を海に囲まれた日本にとって、海は大切なパートナーです。海に親しみ、海を大切にし、海とともに歩んでいくという思いから、70年以上前に「海の記念日（７月20日）」が生まれ、平成８年には『海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う日』として、国民の祝日「海の日」が誕生しました。

当協会は、「海の記念日」「海の日」が皆様にとって海について考えていただくきっかけになればとの思いから長年、海の日の広報活動を行ってきました。

「海の日」20年のいま、もう一度、海と海洋国日本について考えていただきたいと願っています。

大河 南都子（2015年度ミス日本「海の日」）

海に囲まれたハワイで育った私が、今年、20代目のミス日本「海の日」という素敵なタイトルをいただけたのは、何か大きな使命だと感じております。

私の強みであるネイティブの英語で、諸外国に向けて日本の海の取り組みや素晴らしさを発信したいという想いを抱き、海洋関連イベントに出演しております。

出演の度に、海に関わる多くの取り組みについて新しい発見と学びがあります。携わる方々のご努力に心から感謝しております。

今年、海の日が祝日となり20年を迎えました。

この夏、日本の海の恵みや大切さを、より多くの人にお知らせしてまいります！

大山 高明（日本海事新聞社代表取締役社長）

日本船主協会会長・故根本二郎氏の提唱によってスタートし、一大国民運動の末、平成８年に「海の日」が祝日化されたことは関連業界に働く者にとって大きな慶びでした。しかし我々はその通底する意義に関してはいささか鈍感であったと言わざるを得ません。今後は再度７月20日を固定化するだけでなく、関連業界が更に協調努力して国民運動に応える体制作りが必要なのではないかと思います。

加山 雄三（俳優・歌手）

「海の日」と言うのは「海に感謝する日」なんです。

日本の貿易は99.7％を海運業に頼っています。
なので、海がなければ我々の生活も成り立ちません。

そして、海が危険であること、防がないといけない事故もたくさんありますよね。みんなが意識すること、それが大事なんです。

岸 ユキ（俳優）

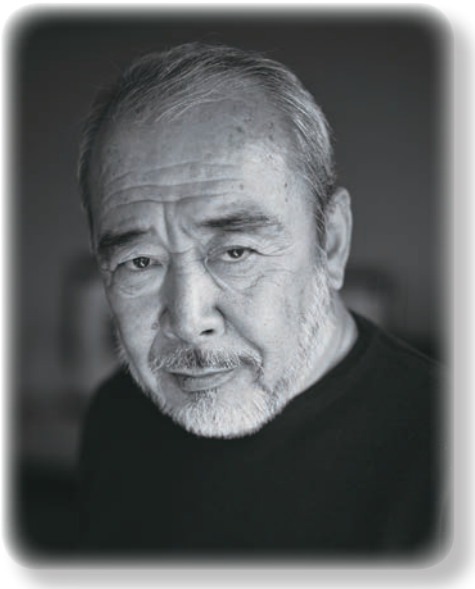
幼い頃夏になると毎日海に出かけ真っ黒に日焼けし五千メートルの遠泳に参加するほど海が好きだった私。海は私を育ててくれました。

大人になりご縁があって「海の日を祝日に」の国民会議の一員にならせていただき、祝日になった時はとても嬉しかった。

海はただ「好き」という一言では済まされない存在です。日本の国の暮らしを支え大きな役割を担う海に改めて「ありがとう」と言いたいのです。

北方 謙三（作家）

海の日には、いつもひとりで安全を祈念する。どこにいても、そうするようにしている。海には、人の力を遥かに超えたものがあり、その力と親和するためには、祈りしかないのである。私にとっての海の日は、日ごろ忘れがちな海に対する畏敬を、改めて見つめ直す大事な日でもある。



鈴木 光司（作家）

海はそのときどきの状況で、様々な顔を見せてくれる。ほほ笑むときもあれば、怒るときもある。水平線に沈む夕日は、陸で見るよりもはるかに大きく、荘厳で、美しいけれど、時化て曇天の夜の海は、底無しの闇を暗示して不気味だ。

両方の顔を持つからこそ、海の魅力は大きい。楽しくもあり、また鍛えられる場でもある。

アグネス・チャン（歌手・教育学博士）

海に囲まれている日本は、特に海の恵、美しさを分かっている国だと思います。

本当に海は、私達の生活に欠かせない存在です。

子供の頃から海と親しむ事によって、大人になって、海の大切さ、愛しさをより深く理解できると思います。

海を楽しむ事はもちろんですが、海に感謝の気持ちを持ち、大事に守っていかないといけないと思います。

大好きな海がいつまでも、青く、美しくいられるよう、これからもみんなと海の素晴らしさを多くの子供達に教えて行きたいと思います。

土井 全二郎（海事ジャーナリスト）

「海の日」。いいネーミングである。斬新な企画、広報活動に期待したい。ただ、この日を迎えて船員は船と航海を思い、陸（おか）の人は海上レジャーを思い浮かべるとか。国民の祝日（現７月第３日曜日）となって20年目。７・20固定化運動も前進をみせている。大切な「海の日」を、どう再構築すべきか。新たな視点から考えるきっかけになればと願う。

中村 庸夫（海洋写真家）

海をとても怖いと思う事もあるが、収まらない嵐は無い。しばらく海を見ていないと海に出たくなり、海に行けば全身が癒される。

私は海にあこがれ、海に関わる仕事を選択し、海に関わって多くの時間を過ごしてきた。

無限な宇宙と共に、広くて深い海には経済的な可能性ばかりか、未来に向かう夢とロマンがある。

宇宙の中で、海は地球だけが持っている潤いのスペースだ。

多くの人が海に触れ、海を知り、そして海のある生活をする。「海の日」がそんなきっかけを作る大きな役割を担ってほしい。

森下 典子（エッセイスト）

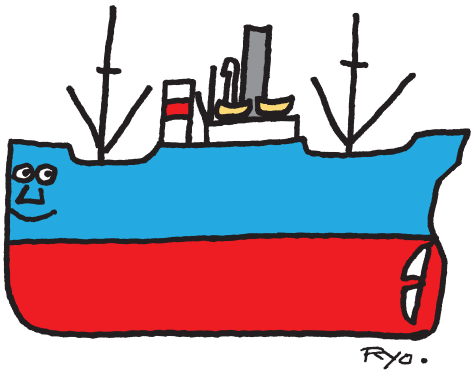
海があることを、私たちは当たり前の様に思ってしまいがちですが、歴史を見ると、日本はいつも海に護られていたからこそ、独自の文化を発展させることができたのだと気づきます。海の幸によって生かされてきたことは、言うまでもありません。改めて海に囲まれていることの幸せに感謝したいと思います。

柳原 良平（画家・イラストレーター）

「海の日」誕生から20年。

海運、造船、港運、港湾など海事産業とそこで働く人々、そして海の大切さに思いを馳せ、「海の日」20年をお祝いします。

柳原良平



海の日

7月20日

7月の第3月曜日は「海の日」です

「海の日」は、海の恩恵に感謝し、海洋国日本の繁栄を願う日です。

海の月間 7/1～7/31

貿易の主役は海です。

日本の貿易量は年間9億トン以上。そのうち99.7%を船が運んでいます。

国民の祝日「海の日」海事関係団体連絡会　［事務局］（公財）日本海事広報協会　TEL.03-3552-5035　FAX.03-3553-6580

【連絡会構成団体】

（一社）日本船主協会／（公財）日本財団／日本内航海運組合総連合会／（一社）日本造船工業会／（公社）日本港湾協会／（一社）日本港運協会／（一社）日本倉庫協会／（一社）日本旅客船協会／（公財）海上保安協会／全日本海員組合／（一社）大日本水産会／（公社）日本海洋少年団連盟／（一社）日本外航客船協会／（一社）日本船長協会／全国海友婦人会／（一社）日本冷蔵倉庫協会／（公社）日本海難防止協会／（一財）日本水路協会／（公社）日本水難救済会／（公社）燈光会／（公社）日本観光振興協会／（一財）運輸振興協会／（一社）日本海事代理士会／（公財）海技教育財団／（一社）日本マリーナ・ビーチ協会／（公財）日本海事センター／（公財）日本海事広報協会

海の日
海にひろがる 夢・みらい

後援：国土交通省

海の仕事.com　検索　http://www.uminoshigoto.com

国民の祝日「海の日」制定の由来

私たちの国は、四面を海に囲まれた海洋国で、古くより、外国からの文化の伝来をはじめ、人や物の輸送や、産業、生活などの各分野にわたって、海に深くかかわってきました。最近では、海洋開発やウォーターフロントの整備、また、マリンスポーツの普及など海を利用する機会は急速に多様化しています。

さらに、地球環境の保全という観点からも、海の役割が重要視され、海洋汚染防止などの必要性が一層高まっています。

７月20日は、昭和16年以来、「海の記念日」として国民の海への関心を高め、理解を深めていただくために、全国各地においていろいろな行事が開催されてきました。このような海の重要性にかんがみ、国民の祝日「海の日」を設けようとの国民運動が大いに盛り上がり、その結果、平成７年２月、国民の祝日に関する法律の一部改正が行われ、平成８年から７月20日が国民の祝日「海の日」として制定されました。

亀山 紘（「海の日」モデル地区　石巻市市長）

「海の日」が国民の祝日である国家は、世界でも日本だけと聞いております。このように、四方を海に囲まれた海洋国家である日本では、人々の営みの中に、様々なかたちで「海」が存在してきました。その中には、東日本大震災の津波のような恐ろしい記憶もあるでしょう。

しかし、本市は「みなとまち石巻」として海と共に生き、その恩恵に育まれてきました。震災からの復興を果たすべく、全国の皆様方からの温かい御支援のもと、海と共に歩んで参ります。

戸田 公明（「海の日」モデル地区　大船渡市市長）

国民の祝日として「海の日」が制定され20年の節目を迎えました。誠におめでとうございます。大船渡市では、各種船舶の船内見学会や入港する大型客船への手づくりの歓迎行事など、市民一丸となって港や船に関わるさまざまな活動を行ってきました。東日本大震災から４年４ヶ月が経過し、私たちは、一日も早い復興への歩みを進めながら、これからも「海」を愛し、「海」に感謝するまちづくりを目指して参ります。

久元 喜造（神戸市市長）

四方を海に囲まれた日本において、神戸は古くから海外との窓口として発展してきました。1868年の開港以来、神戸港は日本を代表する港湾として日本経済を支えてきました。20年前に発生した阪神・淡路大震災により甚大な被害を受けましたが、２年間という短期間で港の復興を成し遂げ、港勢の拡大に取り組んできました。開港150年を迎える2017年を神戸港のさらなる発展の契機とし、市民の海・船・港への関心を深め、人・物で賑わう神戸港の実現を目指していきます。

国民の祝日「海の日」の制定の経緯

■「海の記念日」の制定

昭和16年６月５日　▼次官会議において「海の記念日」制定を決定

昭和16年７月20日　▼第１回「海の記念日」
「７月20日」は明治天皇が明治９年東北ご巡幸の帰途、灯台視察船明治丸で、青森から函館を経て横浜にご安着された日に由来。

■国民の祝日「海の日」制定運動

昭和34年７月20日　▼第19回「海の記念日」に海事関係５団体（日本海事振興会、日本船主協会、日本造船工業会、大日本水産会、全日本海員組合）によって海の日協会（会長　前田多聞元文部大臣）を設立。第１回目の祝日化運動（昭和34年～41年）始まる。

昭和38年12月５日　▼日本海事振興会と海上労働協会が発展的に解散し、日本海事広報協会が発足。

昭和46年10月６日　▼全国会友婦人会（会長　中地朝子）が内閣官房長官、運輸大臣等に対し12万人の署名を添えて祝日化の請願。

昭和46年10月22日　▼閣議において丹羽喬四郎運輸大臣が「海の記念日」の祝日化を発言。

昭和46年11月　▼海事関係10団体（前記５団体のほか、海上保安協会、日本港湾協会、日本船長協会、全国会友婦人会、日本船舶振興会）で、祝日化の要望書を提出。

昭和48年７月20日　▼海の旬間（７月20日～31日）を設け、広報活動を開始。

昭和61年７月　▼第１回海の祭典（於：北九州市）開催。以降毎年、地方主要港湾都市において開催。

平成３年７月20日　▼第51回「海の記念日」に日本船主協会の根本二郎会長が祝日「海の日」制定を提唱。第３回目の祝日化運動始まる。

平成３年11月14日　▼海事関係７団体が発起人となり、国民の祝日「海の日」制定推進会議（議長　日本海事広報協会　永井典彦会長）が発足。

平成４年２月～６月　▼国民の祝日「海の日」制定推進会議による内閣官房長官、運輸大臣等に対する要望書の提出。

平成４年６月３日　▼海事振興連盟（会長　原田憲衆議院議員）の臨時総会において「海の日」祝日化の推進を決議。

平成４年６月12日　▼海事振興連盟は、推進委員会を設置。積極的な祝日化運動を開始。

平成５年３月18日　▼国民の祝日「海の日」制定推進会議を国民の祝日「海の日」制定推進国民会議（会長　山下勇　東日本旅客鉄道会長）に改称。評議員会及び事務局を設置。組織的な祝日化運動開始。平成５年４月以降、反復的に内閣官房長官、運輸大臣等に対する請願を行う。

平成６年５月18日　▼国民の祝日「海の日」制定推進国民会議会長に稲葉興作　石川島播磨重工業社長が就任。

平成６年６月15日　▼国民の祝日「海の日」制定推進国民会議が羽田孜内閣総理大臣に署名と要望書の提出。「海の日」祝日化の署名1,000万人達成セレモニー出陣式を開催。

平成６年９月14日　▼国民の祝日「海の日」制定推進国民会議が村山富市内閣総理大臣に要望書を提出。

平成６年12月　▼全国の47の全都道府県を含む2,281の地方自治体（全地方自治体の７割）の議会において「海の日」の祝日化の意見書を採択。

■国民の祝日「海の日」の制定

平成６年12月６日	▼衆議院内閣委員会において「海の日」の祝日化を内容とする「国民の祝日に関する法律の一部を改正する法律案」が委員会提出法案として可決。
平成７年２月24日	▼衆議院内閣委員会において国民の祝日に関する法律の一部を改正する法律案を可決。
平成７年２月27日	▼衆議院本会議において同法案可決。
平成７年２月28日	▼参議院文教委員会において同法案可決。
平成７年２月28日	▼参議院本会議において同法案可決成立。
平成７年３月８日	▼国民の祝日に関する法律の一部を改正する法律（法律第22号）公布。
平成７年６月12日	▼国民の祝日「海の日」を祝う実行委員会（会長　稲葉興作）が発足。「海の日」の広報活動と慶祝行事等の推進を行う。
平成７年６月29日	▼国民の祝日「海の日」制定推進国民会議解散。
平成７年７月20日	▼第55回「海の記念日」
平成８年１月１日	▼国民の祝日に関する法律の一部を改正する法律（平成７年法律第22号）が施行。
平成８年７月20日	▼制定後はじめての国民の祝日「海の日」。 国民の祝日「海の日を祝う実行委員会主催による「海の日」制定記念式典開催。
平成９年９月13日	▼国民の祝日「海の日」を祝う実行委員会解散。

根本 二郎（元日本郵船㈱代表取締役社長・元日本海事広報協会会長）

「海の日」の法制化がさらに「海洋基本法」法制化へと発展したことに、「海の日」制定運動を展開した頃を思い起こしますと、感慨深いものがあります。

青少年にとって、「母なる海」からの恩恵を学び、たくましさや心の豊かさを身につけることは、「ひと」としての成長の過程で大変意義があることだと思います。「海の日」を機に、海に対する理解を深めていただきたいと思います。

（海上の友　平成19年「海の日」記念号より抜粋）

平成８年７月20日「海の日」

「海の日」宣言　内閣総理大臣　橋本 龍太郎

周囲を海に囲まれた我が国にとって、海とのかかわりは、古くから特別なものがございます。資源の乏しい我が国が貿易立国として存立できるのも、必要な物資のほとんどが海上交通によって確保されているからであります。食生活においては、古来から豊かな海産物に依存してまいりました。また、四季の変化に富んだ豊かな自然を味わうことができるのも、海のお陰といって差し支えありません。

このように海との関わりの深い我が国が、海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う日として、世界に先駆けて「海の日」を祝日とした意義は誠に大きいと考えております。

制定後初めての「海の日」に当たり、国民一人一人が、この地球上に初めて生命体を生んだ海、これまで計り知れない恩恵を与えてくれた海の重要性に思いを致し、海洋環境の保全を始めとして、この大切な海を守っていく決意を新たにしていただきたいと思います。「海の日」のスローガンにあるとおり、「海へ帰ろう」であります。

海は、かつては世界を隔て、遠ざけるものでもありました。しかし、幕末の林子平が隅田川の水はロンドンのテムズ川の水に通ずると言ったといわれているように、今や、海を通じて世界の国々は深く繋がっております。本年は我が国が海洋法条約を批准した記念すべき年でもあります。海洋国日本として、新たな海洋秩序のもとで、世界の平和と繁栄、海洋環境の保全に積極的に貢献していくことを改めて誓うものであります。

（「海の日」制定記念式典より）

平成８年７月20日「海の日」

国民の祝日「海の日」を祝う実行委員会会長

稲　葉　興　作

平成８年から７月20日が海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う日として国民の祝日「海の日」となりました。

四面を海に囲まれ、古来、海からさまざまな形で恩恵を享けながら、今日の繁栄を築いてきましたわが国において、世界にさきがけ、「海の日」が国民の祝日として制定されましたことは誠に意義深く、かつ、大変よろこばしいことであります。

これを機に、一層、私たちは、海の環境を守りつつ、海を多面的に活用し、さらに、豊かな未来を切り拓いていこうではありませんか。

国民の祝日「海の日」は、私たち海事関係者の永年の念願でありました７月20日の「海の記念日」の祝日化が、各界の皆様方のご尽力により実現したものであります。

これから毎年めぐってくる７月20日の「海の日」が単なる休日としてではなく、国民の間で、海の大切さが改めて見つめ直される日であり、また、そのことを日本から世界に向けて発信する日として、有意義な祝日になることを祈念いたします。

（「海の日」記録集より）

平成８年７月20日「海の日」

作家・国民の祝日「海の日」を祝う実行委員会副会長

曽　野　綾　子

日本は古来、母のような海に育まれて来ました。考えてみると、海は決して何ものも拒まないという不思議な存在でありました。夕映えの色も映し、嵐も受入れ、潮の流れも見守り、魚と貝たちのお喋りを許しました。かつて私が見たブラジルのサンサルバドルの、もう使われなくなった砂糖倉庫の前の岸壁で息づいていた海は、月だけではなく明らかに星の光まで波間に映していました。

そのおおらかな海を、私たちは愛し、理解し、そこから多く受け、そこへ再び慈愛を以て返し、共生の実を上げなければなりません。なぜならば、私たちは海によって生かされているからです。

日本では世界に先駆けて「海の日」が制定されましたことを、私は深く誇りに感じました。

（「海の日」制定記念祝賀会より）

平成８年７月20日「海の日」

制定記念歌
「海はいま」（唄：北島 三郎）

叫んでごらんよ　思いのたけを
海は叶えて　くれるから
遠く果てない　水平線の
彼方へ夢を　翔ばそうよ
おーい海　おーい海
青く深く広く　希望を育む

いい顔してるよ　嵐に凪に
海は魅力に　あふれてる
燃える闘志も　大きな愛も
すべては海の　贈りもの
おーい海　おーい海
青く深く広く　ロマンを育む

海から始まり　海へと帰る
海の国だよ　ふるさとは
人もイルカも　海鳥たちも
この海なしに　生きられぬ
おーい海　おーい海
青く深く広く　明日を育む

人もイルカも　海鳥たちも
この海なしに　生きられぬ
おーい海　おーい海
青く深く広く　明日を育む
明日を育む

JASRAC　出1507021-501

2015.7.20「海の日」

国民の祝日「海の日」海事関係団体連絡会

日本船主協会／日本財団／日本内航海運組合総連合会／日本造船工業会／日本港湾協会
日本港運協会／日本倉庫協会／日本旅客船協会／海上保安協会／全日本海員組合
大日本水産会／日本海洋少年団連盟／日本外航客船協会／日本船長協会／全国海友婦人会
日本冷蔵倉庫協会／日本海難防止協会／日本水路協会／日本水難救済会／燈光会
日本観光振興協会／運輸振興協会／日本海事代理士会／海技教育財団
日本マリーナ・ビーチ協会／日本海事センター／日本海事広報協会

事務局：日本海事広報協会
〒104-0043　東京都中央区湊２-12-６
http://www.kaijipr.or.jp
TEL：03-3552-5031